

第4回稲毛区地域福祉計画策定委員会議事要旨

日時：平成17年8月20日（土）午前10時00～12時00分

場所：穴川コミュニティセンター 3階会議室

出席委員：25名中10名出席

事務局：保健福祉総務課 森川主幹、西森主事
健康企画課 海保主任主事、赤岩主事
稲毛区福祉事務所 小澤主任主事、田村主事、石田事務員
社会福祉協議会 青木主査

傍聴人：1名

（会議内容）

次第に従い、会議が進められた。

< 議題 >

（1）稲毛区地域福祉計画（案）について

「稲毛区地域福祉計画（第2次素案）」を提示し、事務局及び作業部会より、資料（稲毛区地域福祉計画取り組み内容一覧表・新旧対照表）を参考に報告を行った後、質疑応答に入った。

（報告者）

全体の構成及び資料編	事務局
第4章基本方針1・2	Aグループ 星野委員
” 3・5	Bグループ 原田委員長
” 4	Cグループ 伊藤（啓）委員

（質疑応答）

委員：新旧対照表の（旧）基本方針2（2）市営住宅の活用については、市の方で行うのは困難であるということで削除したということだが、ここは、市営住宅の空いている部屋をグループホームとして活用できないかということだったと思うが、区でモデル的に実施するようなことはできないのか。

事務局：市営住宅の考え方であるが、担当課では、市営住宅はアパート同様に、空き部屋があれば、募集をかけて新たな人を入れるため、フリースペースという考え、ワークホームというような場所としての使い方は考えていない。

グループホームについては、急激に増えている施設であり、

対象者別計画でも検討されていくと思うが、市営住宅を活用してということは、現段階ではわからないので、外した。

また、ここは「ぷらっとよることができる場づくり」という部分であることから、住宅政策の関係をここで掲載するのはどうかということで外すことにした。

委員 : 私は市の策定委員であるのでこのような意見については、市策定委員会で提案して、議論していきたいと思う。

住宅政策は国の方でも変わってきていて、県の支援計画関係のプレーメンでも家づくりについて提案されているし、Aグループでも出ているので、声を出していきたい。

委員 : なぜこだわっているかということ、市ではOKがでて住民の賛成が得られなかったのでできなかったという経緯があったからである。

委員 : でい・さくさべではグループホームを考えているので、市営住宅でできればいいと思う。

委員 : 一人暮らしの高齢者等の引きこもり防止対策の内容が漠然としている。(旧)では、安否確認を兼ねたゴミだしサービスの実施ときちんとうたわれたにもかかわらず、市の方では実施する予定がないということで、外したということだが、漠然としたものより、安否確認を兼ねたゴミだしサービスの実施として残してほしい。ゴミだしをしてほしいというニーズは非常にある。

事務局 : 市としては、今のところそのようなサービスを実施する予定がないため、取り組み内容から外した。

身近な支援ということで、例えば、元気な高齢者や子ども達の参加による支援や見守りの中で、安否確認を兼ねたゴミ出しなど、住民同士の中で行っていくということでまとめていけたらいいと思っている。

引きこもり防止対策は、項目としては大切なので、具体的な対策は掲載できなかったが、取り組み内容に残している。

文言表現については、また詰めていきたい。

委員 : 高齢者の家を訪問して、子どもが行っている地域もあり、大変喜ばれているらしく、自分の地域でも機運が高まればいいが、今の子どもは忙しく実際にできるのか疑問である。

高齢者の方からは、私も税金を払っているので、市でやってもらえたらと言っているし、公的サービスの方が安心でき

るということで話させていただいた。

委員： 内容が高齢者の引きこもりということなので、内容が変わってしまう。ゴミ出しは支援ではないか。

委員： 引きこもりについては、安否確認だけでは十分ではない。引きこもりをどうとらえるか。きっかけにはなると思うが、もっと深める必要がある。

委員： 以前に実施していたヤクルトの安否確認が廃止になり、安心電話はあったが無機質である。人と人があって触れ合うことが大切である。

委員： 介護保険法が改正になり、高齢者の引きこもりの問題が大事であり、千葉市の施策がまだ見えていないが、3年後に計画が見直され、そのときには介護保険の取り組みも見えてくるので、新たな取り組みが生まれてくるのではないかと。

計画書全体をみると言葉の使い方について、バラつきがあるので、調整する必要がある。また、具体的に何をするのかわからないところがあるので、例示を出していくとわかりやすいのではないかと。

見守りという点で、元気な高齢者や子どもを活用するとか暮らしの助っ人隊ということでもとめてあるが、もう少し踏み込んで、中学校単位で見守り隊をつくるなど具体的に入れないと、強烈なものを感じ出せない。

また、基本方針4の(1)身近な地域での連携・協力による支援や見守りと(2)新たな形での支援や見守りについて、旧来行っているものと新たなものをつなぐための表現を書き込む必要あるのではないかと。

委員： これを見ると担い手が漠然としている。県では、中核地域生活支援センターがあるのに、千葉市にはない。

計画書に掲載されているコーディネート機関はどこが中心になってどのように行っていくのかみえにくい。

委員長： 対象者と担い手が区民となっていることは気になっている。内容によっては、絞っていく必要がある。中核地域支援センターについて、説明していただけると。

委員： 県は保健所の区域ごとに設置しているが、船橋市と千葉市は対象外となっている。千葉市は設置しないという考えでいると聞いている。

フォーラムでは中学校区単位でステーション的なものがある

るといいという思いが話し合われた。

新たな支援や見守りのスタートが何年後になるのかわからないので、その前のページを充実させるべきではないか。

委員 : 県の予算では、実態はかなり厳しいようだ。できれば千葉市はもっといいものを考えてほしいと思う。ボランティアだけではできないと思う。予算が必要である。

委員 : いろいろ議論しているが、5章が大きな問題だと思う。D Oの部分をどうするのかを心配している。どういうふうになっていくのか。これから大きな問題になってくる。

委員長 : 5章は大事だし、中身も突っ込む必要もある。
今日の意見は、また何らかの形で残しておきたいと思う。
31日に市の策定委員会があるので、他の区でもコーディネート組織が出ていれば市でも掲載されてくるのではないかと。皆さんの意見を踏まえて市の策定委員会で発言していきたい。

(2) 基本目標について

基本目標の作業部会案を提示し、作業部会の松川委員より、検討経緯や案の内容について報告を行い、案のとおりで了承を得た。

(基本目標)

みんなで支え合い、安心して暮らせる^{まち}稲毛をめざして

- 心のバリアフリーから始まる“地域発”の新しい取り組み -

(案のポイント)

- ・ 稲毛という文字を入れる。
- ・ なるべく誰でもわかるような言葉を使う。
- ・ ぱっと見て目について、興味を引くようなものとする。
- ・ 1行目は、文字どおりどのようなまちを目指すかの「目標」を書いた。ややイメージ的で漠然としている面もあるが、わかりやすさを基本とした。
- ・ 2行目は、少々耳慣れない言葉も入っているが、興味を引いたり、目新しさを感じさせるようなフレーズで、計画の特徴を表した。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局より、資料（今後のスケジュールについて）も基に、合同フォーラムや次回の区策定委員会などについて説明をした。

< 次回日程について >

次回の区策定委員会は、10月15日（土）10：00より穴川コミュニティセンター3階会議室で開催する予定です。ただし、変更になる可能性もありますので、別途改めて開催通知を送付します。

以上